

第2章 福知山市立図書館の現況と課題

2-1 福知山市の概要

福知山市は、京都府の北西部に位置し、福知山盆地の西半分とその周辺の丘陵、山地にまたがっている。京阪神都市圏と日本海とを結ぶ北近畿地方の鉄道・道路の結接点にあり、古くは城下町として、また交通・通信の拠点として発展し、商業の要衝の地として栄えてきた。市域内には、由良川をはじめその支流である土師川、牧川の河川が流れ、自然に恵まれた豊かな地域資源を有し、かつては養蚕業をもとに製糸業が盛んに行われていた。

旧福知山市は、昭和12年4月京都府で2番目の市として市制を施行した。その後、平成18年1月1日に旧三和町・夜久野町・大江町と合併し、新しい「福知山市」が誕生した。

「21世紀にはばたく北近畿の都 福知山」を将来像に、北近畿をリードする新時代に対応した創造性と魅力あふれるダイナミックな「10万人都市」の実現を目指した施策を推し進めている。平成18年3月末現在、人口：83,575人、東西長：37.10km、南北長：34.30km、面積：552.57km²を有す。

[表2-1]は、1市3町の合併前の人口数の推移を示したものである。旧福知山市で緩やかな増加傾向にあるものの、旧3町は微減傾向にある。1市3町全体では微増減はあるものの、概ね横ばい状態であるといえる。また、[表2-2]は行政区別に人口・世帯数を示したものである。

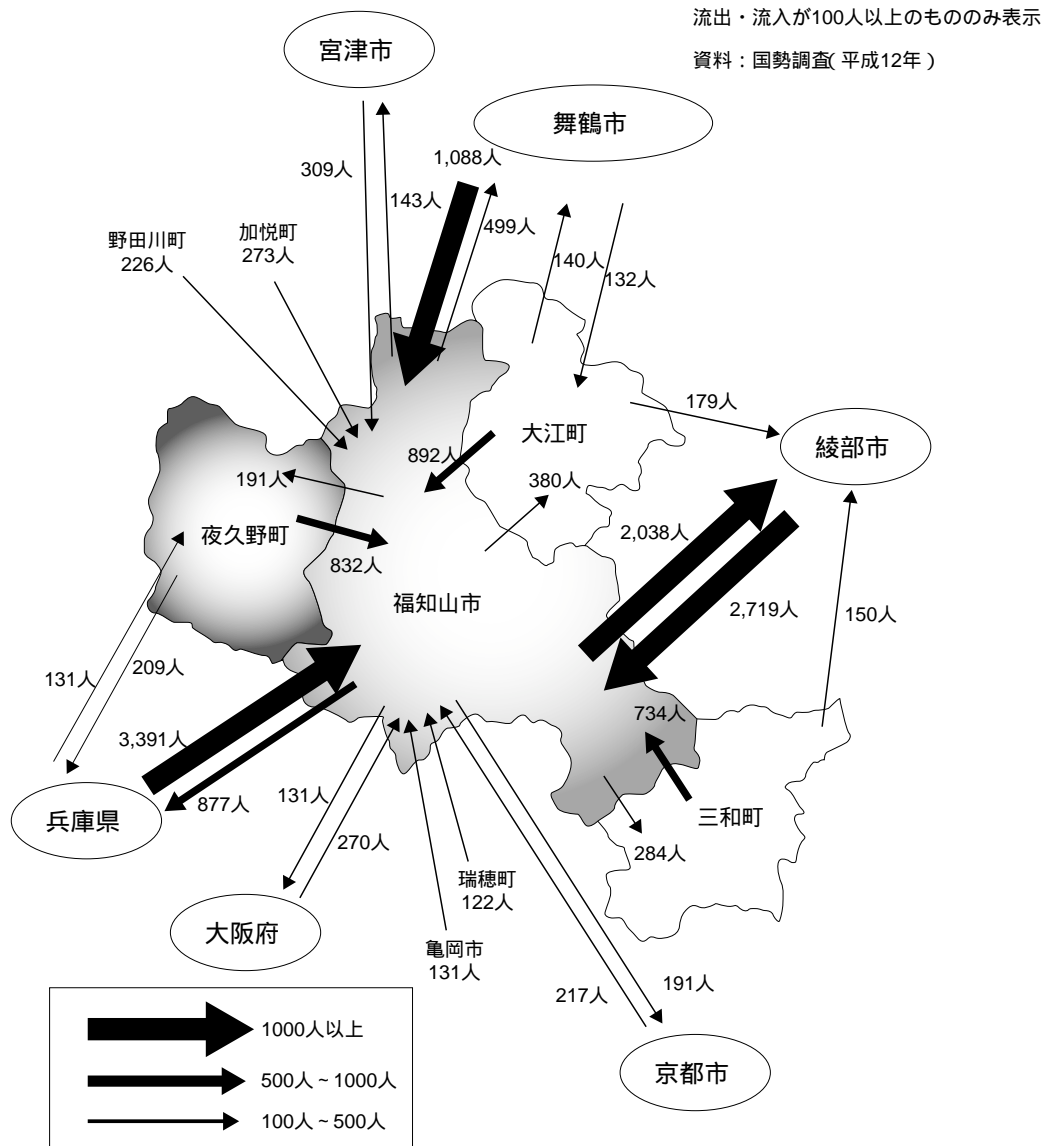
[表2-1] 1市3町の人口数の推移と増減率

		昭和55年	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年
旧福知山市	人口(人)	63,788	65,995	66,506	66,761	68,098
	増減率	—	1.03	1.01	1.00	1.02
旧三和町	人口(人)	5,031	4,919	4,772	4,606	4,448
	増減率	—	0.98	0.97	0.97	0.97
旧夜久野町	人口(人)	6,059	5,828	5,521	5,198	4,869
	増減率	—	0.96	0.95	0.94	0.94
旧大江町	人口(人)	6,520	6,315	5,992	5,990	5,705
	増減率	—	0.97	0.95	1.00	0.95
1市3町合計	人口(人)	81,398	83,057	82,791	82,555	83,120
	増減率	—	1.02	1.00	1.00	1.01

[表2-2] 行政区別人口世帯集計表(平成18年3月末現在)

地区・行政区名	世帯数	人口(人)	1世帯人員
旧福知山市 惇明	3,883	9,138	2.35
昭和	4,245	10,132	2.38
大正	2,985	6,528	2.19
雀部	3,472	8,556	2.46
西中筋	2,664	7,355	2.76
佐賀	350	944	2.70
庵我	1,050	2,614	2.49
下豊富	2,880	7,855	2.73
下川口	370	988	2.67
上豊富	698	1,939	2.78
上六人部	489	1,280	2.62
中六人部	332	967	2.91
下六人部	1,761	4,767	2.71
上川口	661	1,778	2.69
金谷	425	1,180	2.78
三岳	305	748	2.45
金山	236	544	2.31
雲原	137	360	2.63
準世帯	1,200	1,207	1.01
旧福知山市の合計	28,143	68,880	2.45
旧三和町 三和	1,709	4,373	2.56
旧夜久野町 夜久野	1,697	4,715	2.78
旧大江町 大江	2,028	5,607	2.76
総合計	33,577	83,575	2.49

[図2-1]は、住民の生活行動の範囲を通勤・通学の状況でみてみたものである。1市3町内では、3町から福知山市へ集中する傾向がみられ、日常生活におけるつながりの強さがうかがえる。また、綾部市、舞鶴市、兵庫県等へ(から)の流出・流入も多く、住民の生活行動範囲は、既に広域に広がっている。これらの生活行動は国・府県や鉄道によるものが多く、市町内のバス路線も住民の交通手段として確保されている。[新福知山市 まちづくり計画 平成17年3月より]



[図 2 - 1] 1市3町の通勤・通学者の状況

2-2 福知山市立図書館の現況

福知山市の図書館は、大正13年に「福知山町立図書館」として惇明小学校の一室に設けられたのを発祥とし、昭和21年に「福知山市立図書館」となって市内字中にあった迎賓館内に移設された後、昭和47年に現在の市民会館1階に新館として開設した。

平成18年1月1日に福知山市、三和町、夜久野町、大江町の合併により新市が誕生した結果、図書館の名称を「福知山市立図書館中央館」と改め、日新分館、三和分館、夜久野分館、大江分館および移動図書館によってサービスを展開している。その概況は〔表2-3〕に示す通りである。〔表2-4〕は、人口規模における類似都市の人口1人当り貸出冊数上位10図書館について、蔵書数・貸出冊数・資料費の実績を示したものである。

また、福知山市の図書館および関連施設の分布状況を示したのが、〔図2-2〕である。

〔表2-3〕福知山市立図書館の概況（平成18年3月末現在）

図書館名	中央館	日新分館	三和分館	夜久野分館	大江分館	計
施設面積（m ² ）	848	213	148	358	112	—
蔵書数（冊）	97,531	6,037	15,118	27,738	12,371	158,795
年間貸出冊数（冊）	174,385	848	10,175	24,759	8,853	219,020
年間購入冊数（冊）	3,013	56	992	4,581	2,451	11,093
資料費（千円）	4,892	91	1,014	8,175	682	14,854
1人当り	蔵書数（冊）	—	—	—	—	1.9
	年間貸出冊数（冊）	—	—	—	—	2.6
	年間購入冊数（冊）	—	—	—	—	0.13
	資料費（円）	—	—	—	—	178

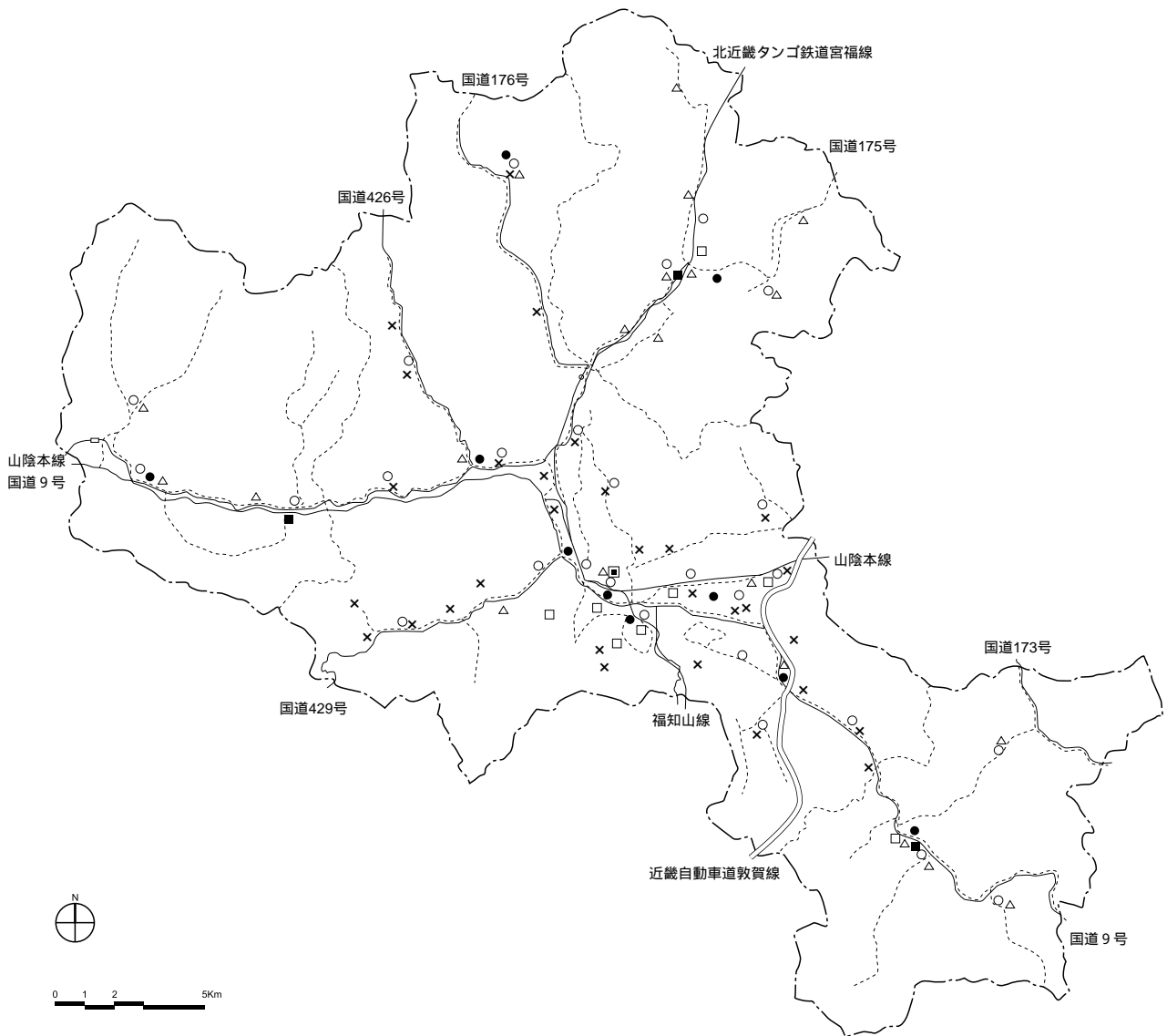
〔表2-4〕人口1人当り貸出冊数の上位10図書館（人口7万人以上12万人未満の市部）

図書館名	人口 （千人）	施設数 （館）	蔵書冊数 （千冊）	年間貸出冊数 （千冊）	人口1人当り		
					蔵書数（冊）	貸出冊数（冊）	資料費（円）
成田市	98	12	733	1,356	7.5	13.9	1,029
草津市	112	2	417	1,344	3.7	12.0	417
岩国市	106	3	422	1,217	4.0	11.5	433
君津市	92	1	393	1,040	4.3	11.3	601
春日市	108	1	305	1,182	2.8	10.9	369
清瀬市	70	6	382	752	5.4	10.7	361
生駒市	114	3	498	1,208	4.4	10.6	550
東近江市	76	5	664	802	8.7	10.5	927
半田市	113	2	444	1,083	3.9	9.6	341
大野城市	92	1	229	854	2.5	9.3	357
平均	98	3.6	449	1,084	4.7	11.0	539

注)「日本の図書館 統計と名簿」2005年度版による。

凡 例

- 市 役 所
- 図書館中央館
- // 分館
- × 移動図書館ステーション
- 小 学 校
- △ 中 学 校
- △ 高 等 学 校
- △ 大 学 ・ 短 期 大 学
- △ 高 等 技 術 専 門 校
- 公 民 館
- バ ス 路 線



[図 2 - 2] 図書館関連施設分布図

2-3 図書館施設の現況と課題

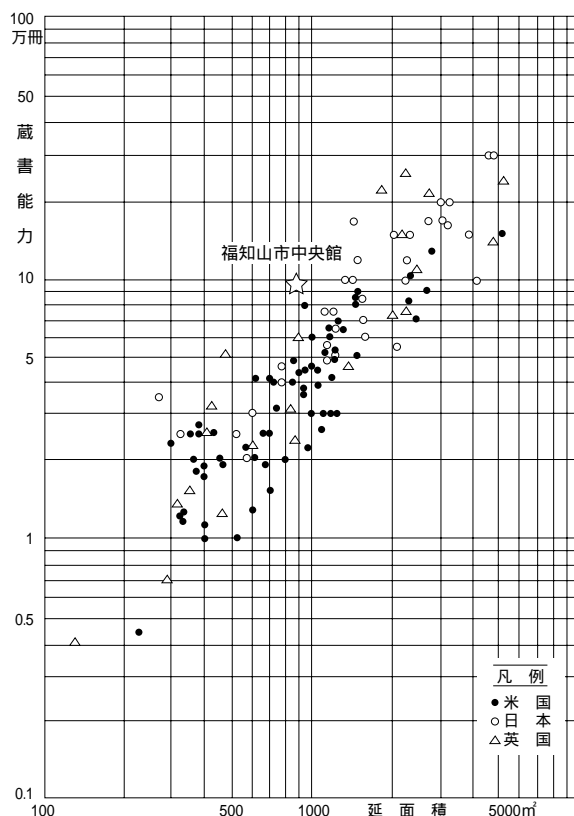
福知山市立図書館中央館は、昭和47(1972)年に市役所隣りに位置する市民会館の1階部分に設置された。建設後ほぼ35年を経過した今日、資料の増加により開架および資料の保存スペースの狭隘化が進み、図書館サービスの低下など図書館としての機能の発揮に限界が生じてきている。

[図2-3]は、先進的といわれている英国(22館)と米国(69館)および日本(35館)の事例について、延面積と蔵書収容力との関係で示したものに、福知山市立図書館中央館の現状を付け加えたものである。

これらの事例と比べてみると、福知山市の数値は延面積当りの蔵書数が飛び抜けて高くなっていることがわかる。現在の蔵書数を収容するには、2倍以上の延面積を必要とすることが読みとれる。

中央館施設の現況について、具体的には次のようなことが問題点として考えられる。

- ア．全体として資料を収納する場所が不足している。特に、閉架書庫および新聞庫はほぼ満杯になっているため、日常の業務に支障をきたしている。
- イ．閲覧スペースが狭く、席数も十分でないため、落ち着いて読書できる雰囲気に欠けている。
- ウ．児童室は奥まった位置にあってわかりにくい。床面積も小さく絵本の表紙を見せた配架が十分にできていない。
- エ．利用者のためのゾーンと職員ゾーンの区分が明確でなく、管理・運営上問題がある。



[図2-3] 延面積と蔵書収容能力

蔵書数・床面積にかかわる粗指標
 公共図書館の規模計画に関する研究
 篠塚宏三、中村恭三
 日本建築学会大会学術講演梗概集
 昭和53(1978)年9月